

教育的価値	具 体 の 項 目	教育課程
2【かかわる】	⑫【自分と地域社会】 自然災害が、暮らしの変化や地域経済に与える影響について理解し、自分と地域社会との関係について考える。	総合的な学習の時間

【題材】

東日本大震災被災地(大槌町)訪問及び語り部ガイドによる震災時や被災地の現在の状況の学習。

【対象】

第5学年の児童78名

【実践の概要】

- (1) 仮設商店街の見学
- (2) 語り部ガイドによる案内(バス移動)
  - ①旧大槌町役場
  - ②蓬莱島
- (3) 大槌町立大槌小学校の仮設校舎の見学



〔仮設商店街の見学〕

【実践の詳細】

- (1) 仮設商店街の見学

東日本大震災の津波により甚大な被害を受けた大槌町を訪問した。

まず初めに、旧大槌北小学校校庭にできた「福幸きらり商店街」を見学した。同校の校庭跡地という狭い場所に、コの字型にプレハブで作られた商店街に約40店舗が入っている。町内にある仮設商店街の中では最大規模で、見学中には、町民の方々が絶え間なく訪れていた。



〔旧大槌町役場前で黙祷〕

- (2) 語り部ガイドによる案内(バス移動)

- ①旧大槌町役場

旧大槌町役場前で、この場所で亡くなられた方々への1分間の黙祷の後、語り部ガイドの説明がされた。語り部ガイドの方は、ご自身の婚約者が当時役場職員で、住民の避難誘導中に津波の被害にあって亡くなったというように住民の多くが肉親を亡くしているので、行動に注意するように話された。

旧役場庁舎の周辺は、町方地区と言われ、町の中心部で、商店街や住宅のほか、役場、警察、病院、消防署、駅などの公共施設あった。



〔旧大槌町役場前での学習風景〕

旧役場前からは海は見えなかったが、大震災に伴う津波により防潮堤が破壊され、全ての建物が流出したため、海が間近に見える。しかし、当時は、防潮堤や建物があったので、津波が迫ってくるまでその存在に気づきにくかったこと、避難場所の寺の上の山までの道のりも遠かったことなど、当時の状況の説明を受けたことで、児童は津波被害や避難について実感できたようである。



〔旧大槌町役場前での学習風景〕

## ②蓬萊島

旧役場前から蓬萊島に向かうバスの車窓から、津波被害の大きかった安渡地区や赤浜地区の様子を見ることができました。

バスは蓬萊島を間近に見ることができる岸壁の広場に駐車し、語り部ガイドの説明を受けました。

語り部ガイドの説明では、津波到達の様子や現在の復興の様子のほか、大槌湾が豊富な海産物に恵まれていることなどが話されました。



〔蓬萊島近くの岸壁での学習風景〕

## (3) 大槌町立大槌小学校の仮設校舎の見学

大槌町立大槌小学校の仮設校舎は、「大槌ふれあい運動公園」のサッカー場に、震災の年の9月に完成した。現在の大槌小学校は、大槌小学校のほか、安渡小学校、赤浜小学校、大槌北小学校の3校が統合され、一つの仮設校舎に入って学んでいる。

大槌小学校に到着後、同校の菊池啓子校長先生の説明を受けた。県内外からの訪問者が毎日のようにあり、この日もJリーグで活躍中のサッカーチームが訪問していた。校長先生の説明後、校舎を1周し、体育館に入ってみることができた。



〔大槌小学校前での学習風景〕

## 【事後学習等】

- ・学習のまとめとして、班ごとに新聞作りを行った。
- ・被災地（大槌町）訪問の学習を実施したことにかかわって、廊下に写真を掲示した。

## 【児童の感想】

- ・これからも大槌町の復興に協力し、元にもどってほしいです。
- ・私は、大槌に行って、いろいろな人の思いや願いを知りました。これからも復興ができるように協力したいです。
- ・ぼくが大槌町を見て感じたことは、たいへんなことがあったということです。津波のこわさがよく分かりました。それと同時に、命の大切さも知りました。これからは、命を大切に生活したいと思います。
- ・いろいろな人の思いを心に入れ、これからの募金活動を積極的に行いたいです。

## 【まとめ】

児童にとって、震災や復興は、テレビや新聞で見聞きすることはあっても、実際の被災地から100km以上離れた内陸に居住しているという状況から、身近には感じられなかった。

今回の大槌町訪問によって、実際の被災地の状況を見ることや、語り部ガイドによる体験談を聞くこと、大槌小学校を見学することによって、身近な存在に感じることができた。児童は、自分たちもともに復興に向けて歩もうという意識をもつことができたということでは、今回の学習の意義は大きかった。



〔廊下の掲示〕



〔児童が作成した新聞〕